

## 少子高齢・人口減少社会を支える子を育む総合的な学習の時間の課題Ⅲ

静岡大学教育学部	馬居政幸
秋田県秋田市立東小学校	渡辺和則
静岡県富士市立富士第一小学校	米津英郎
静岡県焼津市役所児童課	新村弘道

### 1 研究発表の目的

少子高齢化の進行による人口減少社会に生きることを余儀なくされる現在の子どもたちに必要な資質を育む総合的な学習の時間の課題を明らかにする。

### 2 研究発表の内容

本研究において我々は、H17・H18 度の本研究大会で総合的な学習の時間の実践に内在する問題点を整理し、少子高齢化と人口減少が進行する社会の特徴と課題ならびにその課題を解決するうえで必要となる資質は何かを提案した。

#### ○前回の発表で提案した本グループが提案した育成すべき力

- ・世代間で支え合おうとする態度
- ・多様な人たちと共に働き生活する必要性を理解する力
- ・現実（ヒト・モノ・コト）を考えて、提案する力
- ・大人になったときの生活や社会を想像する力

本発表では、これまでの研究結果を受けて取り組んだ新たな静岡での授業実践に基づき、少子高齢・人口減少社会を支える子を育むうえで、総合的な学習の時間が担うべき課題と可能性について提案する。その上で少子高齢・人口減少が最も進んでいる秋田での実践との比較を行う。

### 3 研究対象の授業概要

分析対象の実践は、米津が H19 年度に担任した第 5 学年で取り組んだ単元名「みんなが来たがる池（全 6 5 時間）」である。

1 年生の時に遊んだ思い出の池が悲惨な状態であることに気付いたとき、子どもたちは動き始めた。毎朝登校すると池に通い、水面に浮いている葉っぱを拾い始めた。その後、クラスで話し合い、学習問題「みんなが来たがる池にするにはどうしたらよいのだろう。」を作成した。グループ活動では、メダカや微生物を調査したり、水道料金を調べたりした。そのことを学年や全校に伝え学びを深めた。しかし、調査と話し合い活動が深まれば深まるほど、新たな問題が見えてきて結論を出すことができず、当初の目的であった池をきれいにする作業を終わらせることができなかった。

### 4 成果と課題

本研究で明らかになったことは、授業者が今後子どもの生きる社会を想定し、子どもにつけたい力を具体的にイメージして学習内容を作成すれば、少子高齢・人口減少社会を支えようとする子どもを育むことができるということであった。

しかし、学習活動がいかに活発であったとしても、活動のみで終わってしまったり話し合ったままで終わったりしたままでは、この成果を達成できなこともまた明らかになった。課題は、活動過程で生じた問題に対し、メリット、デメリット双方を考慮しつつもオープンエンドでなく結論を出し、問題を解決する調整力と実践力を身に着けることができる学びの方法である。そのための授業構想、実践過程における働きかけについて、静岡と秋田の実践を通して提案する。